

☆ 授業中のルール、明確になっていますか？

～子どもが安心して授業に向かうために～

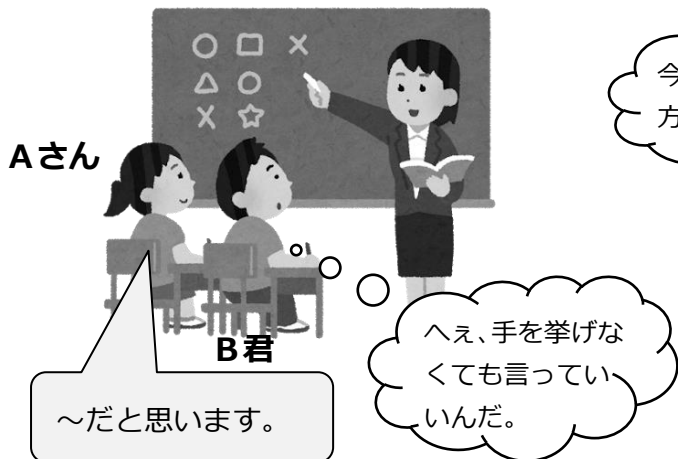
勝手に発言する子がいて困っているんですが…

勝手に発言する背景には、本人の障がいによる困難さが関係していることもあります。まずは、自分の学級の発言のルールが明確になっているか、他の児童にも徹底されているかを考える必要があります。

こんな例があります

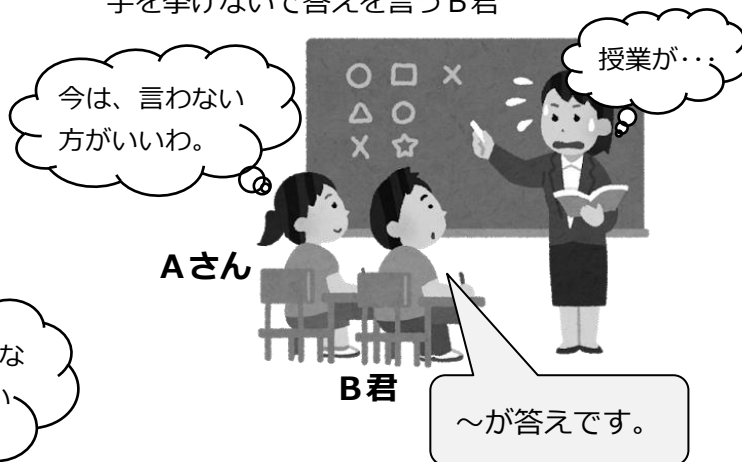
①パターン

教師は発言を求めて「どうですか?」と言い、手を挙げないで答えたAさん



②パターン

教師は発言を求めていない流れで「～どうですか?」と全体に問いかけ、次に進もうとした所、手を挙げないで答えを言うB君



場の空気を読んで行動するAさんに対し、それが苦手なB君のようなタイプがいます。B君のようなタイプは、学級で当たり前とされている暗黙のルール等が分からないことがあります。そんな児童生徒からすると、時と場合によって、自由な発言が許されたり、許されなかったりして、先生から意味も分からずに叱られたという印象だけが残ってしまいます。

**個別の配慮や支援を考える前に、
まずは、学級全体の授業中のルールを明確に示すことが授業の基盤となります。**

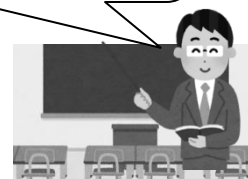
【どんな授業中のルールが必要ですか？】

平成 29 年 4 月に出された『ふくしまの「授業スタンダード」』の中では、次のように述べています。

学習規律について、発達の段階を踏まえて共通実践することが大切です。

- 学習に臨む心構えや約束事を指導する。
 - 宿題や学習用具を忘れない。
 - 始業前に学習用具を準備する。
 - 指名されたら返事をする。
 - 1 分前着席をする。 など
- よい話し手、よい聞き手を育てる。
 - 相手意識や目的意識をもつ。
 - 声の大きさ、速さ、目線に気を付けて話す。
 - 話をしている人を見て共感的な態度で聞く。
 - 必要なことはメモをとる。 など

学校や学級によって、特に大切にしたいことがあると思います。明確に児童生徒に示すことが大切です。



【学級の実態によっては、こんな授業中のルールを示す例もあります。】

暗黙のルールも、明確にして示すことで、子どもにとって分かりやすくなります。いったん定着したらルールの掲示を外します。

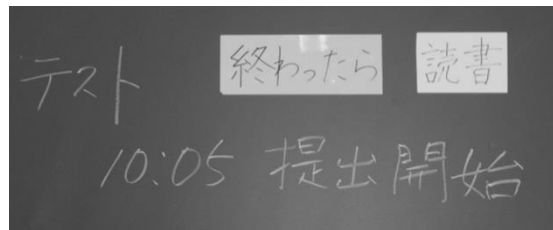
分からない時にどうするのか、しっかりとルールにして伝えておくと、子どもも安心して、学習に臨めます！

*当センターWebサイト教材・支援機器ポータル実践例「学習学習でつまずく児童に対して、学級でできる配慮」より

一つの課題が終わった後に、子どもたちからの「先生！どうすれば・・・」の質問ラッシュを避けるために、活動の順番を明確にし、見通しを持たせます。



課題が終わった後に、自主的に自分にあった課題を選び学習する例



「提出開始」と時間と行動を明確に示し、終わった後の行動も示した例